

2026 年 9 月 3 日

J X 金属株式会社
J X 金属サーキュラーソリューションズ株式会社

KDDI が実施するリチウムイオン電池内蔵製品の回収実証に参画 — AI 自動分別リサイクルボックスを活用し、身近で安全な資源循環モデルの構築へ —

J X 金属株式会社（社長：林 陽一、以下「J X 金属」）と三菱商事株式会社（社長：中西 勝也）が共同出資する J X 金属サーキュラーソリューションズ株式会社（社長：戸上 一郎、以下「JXCS」）は、KDDI 株式会社（以下「KDDI」）と株式会社ローソン（以下「ローソン」）が 2026 年 9 月 1 日から 11 月 30 日まで実施する、ローソン高輪ゲートウェイシティ店舗付近のスペースに設置する耐火性を備えた、株式会社フォーステックが日本展開を行う AI 自動分別リサイクルボックス「Bin-e」を活用した使用済みリチウムイオン電池内蔵製品の回収実証に参画します。

本実証において、JXCS は、回収されたモバイルバッテリーおよび加熱式たばこの収集・運搬・リサイクルを担います。

近年、スマートフォンやモバイルバッテリー、加熱式たばこ機器、ワイヤレスイヤホンなど、リチウムイオン電池を内蔵した小型家電が広く普及する一方、使用済みリチウムイオン電池の不適切な廃棄による発火事故が社会課題となっており、安全な回収・処理体制の整備が求められています。

また、リチウムイオン電池や使用済み小型家電には、リチウムやコバルト、ニッケルといったレアメタルや貴金属が使用されており、資源の有効活用や資源安全保障の観点から、サプライチェーン全体が連携した適切な回収・リサイクルを進める仕組みづくりも課題となっています。

J X 金属グループは、銅製錬事業で培った技術を活用し、廃電子基板などに含まれる銅、貴金属および多様なレアメタルを効率的に回収・再生しています。JXCS では、使用済みリチウムイオン電池からリチウム、コバルト、ニッケルなどのレアメタルを回収し、再び電池材料として利用するクローズドループ・リサイクルの実現に向けた事業化に取り組んでいます。

今回、KDDI が推進する実証に参画することで、身近な場所での回収と資源循環をつなぐ仕組みづくりに取り組みます。J X 金属グループにとっては、本実証は生活圏における回収拠点を通じた資源循環の仕組みづくりに向けた第一歩です。実証を通じて得られる知見を活かし、今後のさらなる連携拡大や取り組みの発展につなげてまいります。

本参画を機に、リチウムイオン電池内蔵製品の適正処理を通じた発火事故の抑制に貢献するとともに、さまざまなパートナーとの連携を広げながら、使用済み製品から回収した金属資源を新たな製品へと循環利用するクローズドループ・リサイクルのさらなる推進を加速してまいります。

今後も J X 金属グループは、さまざまなパートナーとの連携拡大を進め、限りある資源を再び社会で活用する循環型社会の実現に貢献してまいります。

以 上



AI 分別機能と耐火性を備えた AI 自動分別リサイクルボックス「Bin-e」